

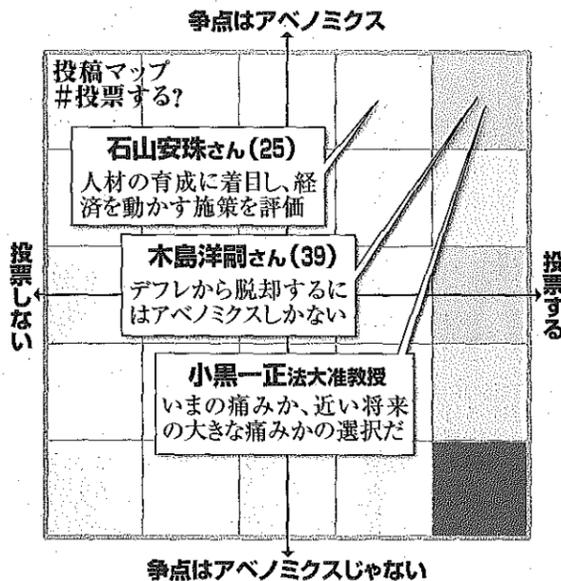
アベノミクス 私は問う

争点化は賛同 評価は分散

衆院選が2日、公示される。11月27日夜に朝日新聞デジタルに設けた投稿マップには1日夜までに、約620件の意見が寄せられた。投稿が最も多かったのは「争点はアベノミクスじゃない／投票する」の約380件。一方、安倍晋三首相の設定通り「争点はアベノミクス／投票する」としたのは106件だった。ただ争点化に賛同した投稿を読み解くと、経済政策への評価は分かれた。

#投票する?

2014 衆院選



「政策に本気を感じます」。東京都渋谷区の会社員石山安珠さん(25)はアベノミクスを支持する。評価するのは、女性活躍や若者の育成など「人材」に投資しようとしている点だ。人材採用支援に携わり、一企業で定年まで正社員で働き続ける雇用形態の難しさを感じている。「子ども

朝日新聞デジタルの特集ページ「#投票する?」(<http://t.asahi.com/toukoumap>)では、引き続き意見を募集中です。投稿マップ上の自分の意見に近いマス目を選んで、コメントをどうぞ。マップ上の投稿数が増えるとマスの色も濃くなります。ツイッターのハッシュタグ「#投票する?」へも意見をお寄せ下さい。

意見お寄せください

や高齢者ではなく、もっと働く年齢層に重きを置いてほしい」と注文もつけた。シンガポールで会社を経営する木島洋嗣さん(39)も支持派だ。「デフレから脱却するため、他に手段はない。名目賃金の上昇など効果も出ている」と評価する。ただ「第3の矢」の規制緩和などによる成長戦略は「進んでいない点もある」と指摘。消費増税の延期は「現在の景気状況では仕

方がない」と納得している。一方、アベノミクスの内容や政権が強調する実績に批判的な声は、支持派をやや上回った。「大企業のみが優遇される」「やっついている施策は格差を拡大するものばかり」「地方経済は疲弊したまま」。多いのは恩恵は一部だけという指摘だ。国民の側から実態と生の声を発信する必要性を訴える投稿もあった。

(吉浜織恵、古田大輔)



小黒一正・法政大准教授 (公共経済学)

問われるのは「今の痛みか、将来の痛みか」

争点はアベノミクス。より正確に言えば、財政破綻を避けるためにどうするかです。消費増税の延期は、リーマン・ショックのような事態が起こらない限り賢明な選択ではなかった。国の借金が1千兆円を超える財政の深刻さを考えれば、2015年に10%でも遅いし少ない。高齢化で社会保障給付費は毎年約3兆円増えます。消費税率1%分の税収アップは2・5兆円を上回る程度です。財政再建のためにも景気回復を優先すべきだという人もいます。では2年後に本当に景気が回復し、増税できるのか。財政再建には三つの手法しかありません。増税、歳出削減、経済成長。経済成長に頼る財政再建はキャンセルです、それだけではとてもまかなえない。結局、増税と歳出削減しかありません。問われているのは「いまの痛みか、それとも、近い将来のより大きな痛みか」の選択です。

(聞き手・古田大輔)